

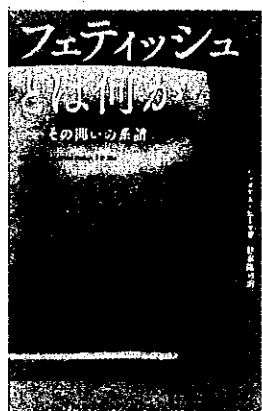
フエティッシュとは何か

その問いの系譜

ウィリアム・ピーツ著

杉本隆司訳

「フエティッシュ」とは、つねに不吉な語源をもつ言葉でありつづけてきた。〈理論的には示唆に富むこの言葉はいわくつきの代物とされ、その意味を取り込んで管理しようとしてきた人文諸科学にとって長いこと「悩みの種」でありつづけた。モノが信仰と欲望の対象になり、商品／貨幣となるフエティッシュの概念と歴史を検証する。ここでは概念形成に決定的な役割を果たした時代と空間を16〜17世紀と西アフリカに設定し、さらに以降顕在化する植民地主義を支える商業イデオロギーの文脈のなかでその後のフエティッシュの内実が創られたと説く。価値創造の謎に迫る人類学の新たな境地に。



B6判／212頁／2700円
以文社